

編集部の
授業見学レポート

教科書

2年 P.93~95

実践者

大橋立明 先生
長岡市立山本中学校 教諭

教材名

つながる命

内容項目

D（19）生命の尊さ

授業見学にあたって

◆核家族の増加などによって、「人の死」を身近に感じにくい現代。脳死による臓器移植という今日的なテーマに、中学2年生がどのように向き合うのか、また、大橋先生が取り組まれている、2つの立場にあえて分かれて話し合う「2つの意見」という手法では、どんな授業展開になるのか、楽しみに見学しました。

◆山本中学校は、1学年1クラスの小規模校。生徒どうしの関係性は安定し、とても落ち着いていました。

授業の概要

◆ねらい：命をつなげるることについて考えることを通して、生命尊重の理解を深め、命を大切にしようとする態度を養う。

◆生徒数：16人

◆教材のあらすじ：新聞記事と「資料」で構成された教材。6歳未満の女兒（Aちゃん）が脳死と判定され、両親は苦悩の末、Aちゃんの臓器を提供すると決断。新聞記事には、父・母それぞれの迷い・願いがつづられている。「資料」には、脳死の状態では、体は温かく眠っているように見えるが、やがて心臓が停止すること、世界の多くの国で脳死は「人の死」とされていること、日本では、臓器を提供する場合に限り、脳死を「人の死」と認めていることなどが記されている。

当日の授業の流れ		
	学習活動／先生の発言／生徒の発言・様子	編集部のまなび／指導の工夫
導入	教材名からイメージすることを出し合う。〈3分〉 ●「つながる命」って、どんな感じだろう？ ・人が集まって支え合う。 ・先祖から受け継がれる命。人と人が出会って、子どもが生まれる。 ・教科書を先に読んでしまった。臓器移植の話だった。	◆アイスブレイク的に、教材名からイメージすることを出し合う。生徒は、本時で考えることを自然と意識していく。
	教材を読む。〈5分〉 ●今日は教科書 93 ページの「つながる命」で考えます。	◆先生が教科書 p.93-95 を音読。
展開	教材を読んだ感想を共有する。〈5分〉 ●読んでみて、どんな感想だった？ ・お父さんとお母さんは、本当は A ちゃんの臓器を提供するのはいやで、悩んだかもしれない。それでも臓器を提供したのはすごい。 ・臓器提供を待っている人を一人でも救えるなら、希望がもてるのではないか。 ・お父さんもお母さんも、A ちゃんのことが大切。	◆廊下側の席の人・窓側の席の人のペアで感想共有。その後、クラス全体で共有。 ◆挙手する生徒は少ないが、先生は各自の意見が大切にされる環境を作るような声かけをしていた。
	臓器移植に関する追加の資料を読む。〈4分〉 ●臓器移植について調べたら、腎臓移植を受けた男の子の「サンクスレター」がありました。（追加資料を配布） ●臓器移植と脳死についてもまとめました。（モニターに、臓器移植と脳死の説明を表示）	◆先生が追加資料を音読。生徒は自由に思ったことをつぶやいていた。 ◆臓器移植や、脳死の定義などを確認。

	2つの意見について、自分の考えを明らかにする。〈5分〉 ●自分が A ちゃんの家族の立場なら、臓器提供「する」？ それとも「しない」？ 「2つの意見」のどちらに近いかな。理由も併せて考えよう。 （生徒から、考えるにあたっての条件を確認する質問が挙がる） 「2つの意見」の真ん中は、選べない？ 「自分の子ども」の臓器を提供するかということ？ ○悩むけど、「2つの意見の」どっちに近いかを考えて選んでみよう。 「自分の子ども」っていうことで考えてみて。	◆「2つの意見」を黒板に貼り、クラス全体で内容を確認。その後、各自で考えさせる。 ◆生徒から、意見を選ぶ際の条件を確認する質問が幾つか挙がり、その都度、先生も悩みながら回答。
	それぞれの考えを理由とともに共有し、話し合う。〈17分〉 ●臓器提供を「する」「しない」、どちらを選んだか、ネームプレートを貼ろう。 （各自、黒板にネームプレートを貼る） ●臓器提供を「する」派の人が多いけど、どうして「する」ほうを選んだの？ - 臓器提供を待つ人のつらさがわかるから。誰かが元気になってほしい。 - 脳死でやがて死んでしまう。何もしないよりは提供するほうを選ぶ。 ○自分の子どもは死んでしまうけど、それでもそう思える？ - 苦しい。 ○「苦しい」という意見があるけど、みんなは、どんな「苦しい」なのかわかる？ - 臓器移植を決めたら、自分の子どもは亡くなってしまうという苦しさ。 ●臓器提供を「しない」派は、どうして「しない」を選んだの？ 「自分の子ども」と考えたら「しない」ほうを選ぶ。 - できるだけ長く生きていてほしいから。生きているだけでいい。 ○臓器提供で元気になる人がいたり、もう子どもは動いたり話したりできるようにならないとわかっていたりしても、そう思う？ - その人の体は1つしかない。それがなくなるのは悲しい。 ●「する」派の人は、「しない」派の人の考えを聞いて、どう思った？ 「しない」派の人は、「する」派の人の考えを聞いて、どう考えたかな。	◆自分の選択を、黒板にネームプレートを貼る形で表現。どちらに貼るかを悩む生徒や、貼った後も友達と話し合う生徒など、さまざまな葛藤の姿が見られた。 ◆多数派から先に理由を尋ねていた。少数派の意見には多数派の考えを揺さぶる内容が多いという、先生自身の経験に基づく判断とのこと。 ◆それぞれの意見を選んだ理由に対して、先生が丁寧に問い返し、生徒が自分の中にある複雑な思いを自覚できるようにしていた。 ◆一人の生徒が感じた「苦しさ」を、全体で想像するよう促し、臓器提供を巡る複雑な思いに触れさせていた。
	2つの意見について、共通点と相違点を見つける。〈5分〉 ●この2つの意見の共通点は、なんだろう。 - 両方とも、誰かのためを思って決めているところ。 - どちらを選んでも悲しい。 - どちらも、子どものため。死んでしまうけど、臓器提供することで、最後に人を助けることができる。 ●この2つの意見の違うところは、どんなところだろう。 - 自分の子どもの命か、他の誰かの命か。 - 自分の子どもについて思うか、他の人のことを思うか。	◆「2つの意見」の手法では、最後に、それぞれの意見の共通点と相違点を見つけることで、単なる二項対立や、どちらが正しいかといった議論に陥らないようする。
終末	本時の学びを振り返る。〈6分〉 ●今日考えてきたこと（主題名）は、どんなことだったんだろう。今日の振り返りをしていこう。書いてほしいのは、①主題名について ②共感した意見 ③新しい問い ④感想 の4つです。 もし自分の家族が亡くなってしまったら、提供をするという選択をしたいけど、「しない」派の人の意見をきいて、できないかもと思った。臓器移植を決断したのは、とてもすごい。「体は1つしかない」という意見に共感した。1つしかない体を他の人に渡すのは、確かに迷う。臓器移植をするのとしないと、どっちがその後、幸せになれるんだろう？	◆今日考えてきたこと（主題名）を、最後に生徒に投げかけるという手法を取っていた。振り返りの意味も含め、この時間に学んだことを、生徒がどう意識しているかを見取るため。